



過去から学び、今を生きる

中里中1年 菅原 有紗

新型コロナウイルス感染症の影響で私たちの生活は変わった。休校になって思い浮かんだのが、アンネ・フランクだった。私は外に出られなくてもできることをやろうと決めた。いとこが出産したが、会える日はまだ先になりそうだ。ニュースを見ると、何が正しいのかわからないが、考えることを忘れないでいたい。



もう1人の家族

小泊中1年 青山 聡真

今までいろいろな種類のペットを飼って、毎日の世話は大変でしたが、楽しい思い出ばかり残っています。ある日、テレビでやせ細った犬や猫を目にしたとき、殺処分の数も多いことから、動物の運命が飼い主によって大きく変わってしまうことに、飼い主の一人ひとりが責任感を持つことが大切だと思った。



部活動の楽しさ

中里中2年 青山 桃子

忘れもしない去年の秋、試合に初出場し、初得点を決めた。バレー部に入ってからはずべてが新鮮で、技術を磨くことが楽しかった。チームでつなぐラリーから、仲間や努力の大切さを学んだ。初得点の時は顔面レシーブだったが、レシーブでセッターに返し、レギュラーとして勝利に貢献したい。



大きな夢をもって

小泊中2年 敦賀 望

英語は、小学校の授業で興味を持ち、中学校ではもっと好きになった。将来の夢は、カナダで働くことだ。この夢を叶えるために、TOIECや英検での好績を目標に、勉強を頑張っていきたい。そして、日本の歴史や文化を海外の人に紹介できるようになりたい。I plan to do everything in my power to shape my future.



大好きなクラスと私の将来

中里高2年 三和 美優

2年生は10人で1人ひとり個性がある。学校祭で踊るダンスの練習で、先生がいつも言っていた「個性を大切にすることの意味が分かったとき、過去に訪れた子ども園での情景が重なった。様々な個性と出会う園児たちを見守り、導きたいと思った。クラスみんなのおかげで、将来の夢を保育士に決めることができた。

第8回 中泊町少年の主張大会

8月28日(金)に総合文化センター「パルナス」で開催され、町内の6小中学校と中里高校の代表生徒計9人が発表をしました。

ここではその発表の一部を紹介します。



中泊町を救う僕ら

中里小6年 櫻井 真斗

中泊町は、人口が少ない田舎の町と思っていたが、町の人口減少問題の深刻さを知り、町がよくなる方法を調べたり、インタビューしたりした。東京などでのPRや、空き家に住めるようにすることで、町の経済が発展するだろうと考えた。たくさんやる必要があるとわかり、まだまだ努力しないといけないと思った。



友達とのつきあい方

武田小6年 佐野 陽菜

心を許せる友達は「いいなあ」と思うが、友達とのつきあい方に悩みがある。断れないこと、合わせてしまうこと、注意できないことだ。でも、くよくよせずに新しい自分になれるよう、勇気をもって、注意し合い、感謝し合うことで、本当の友達になれると思う。この考え方を大切にして、自分らしく過ごせるようにしたい。



ぼくの人生 うしろむき

薄市小6年 北畠 昊

僕は自分のことがあまり好きではなかった。いつも後悔する自分や我慢できない自分がいやだったが、絶対になると努力を始めた。プラスの言葉が口から出るようになったが、その言葉は自分自身には言えず、落ち込む日が多かった。これからもうよくよすと思う。でもそんな自分を今は少し好きと思えるようになった。



優しさにつつまれて

小泊小6年 加藤 久夏

通学路でも毎日交わされるあいさつから、地域の人が家族のように大切に思ってくれていると感じ、「いってらっしゃい」の一言で一日のパワーをもらっている。地域ではボランティア活動が活発で、感謝の気持ちでいっぱいだ。この小泊の優しさを忘れず、大人になったとき同じような心の温かい人間になりたい。